

提 案 概 要

実施期日	8月2日(火)
部 会 名	中学校 数学部会

1 提案テーマ 『“まなびのプラン”を活用した、学ぶ意欲を引き出すための指導と評価について』

2 単元(題材) 連立方程式

3 学年 第2学年

4 平成27・28年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

② ティーム・ティーチングや少人数指導、習熟の程度に応じた指導、課題学習、補充的・発展的な学習等の個に応じた指導と評価の工夫・改善

5 学習指導要領との関連

第2章 第3節 数学 第2 各学年の目標及び内容 [第2学年] 2 内容 A 数と式

(2) ア 二元一次方程式とその解の意味を理解すること。

イ 連立二元一次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解すること。

ウ 簡単な連立二元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用すること。

6 実践に向けての課題意識

生徒の実態

〇おおむね、学習に対して意欲的である。しかし、積極的に授業に参加する生徒が多くいる一方、内容についてつまづいたところがあると、そこから先に進めなくなる生徒が一定数いる。また、学校を欠席したり、授業の間隔が行事等で空いてしまったりするようなとき、授業の内容が継続しにくいときがある。

学校の課題

〇各教科において授業の進め方は教員により様々である。しかし授業を受ける生徒の立場からすると、いろいろな先生の授業の仕方に対応しながら学習を進めているともいえる。少人数授業などで、個々に支援はしているが多くの時間を一人ひとりに割くことができない。様々な特性がある生徒がいるので、より良い授業の方法について模索している。

7 実践の概要

〇各単元で“まなびのプラン”を生徒に提示し、それに基づき授業展開をする。

“まなびのプラン”とは、その単元の最終目標を達成するために、各授業での一つひとつの目標がその最終目標とどのようにつながっているのか、どのような位置づけなのか、などがわかるように示されたものである。

〇教科にかかわらず授業のスタンダードを作り、同じ流れの授業展開をする。

・「ねらいカード」を授業開始時に示し、毎時の授業目標の焦点化を図る。

・授業に入るときに教室の前面に集中できるように、黒板の両脇にロールカーテンを設置し、授業時にはそれを下ろして前面に他の刺激が少ないように配慮する。

8 成果と課題

〇「ねらいカード」を示すことにより、今日の目標が明確化できた。生徒からも「この授業でこの内容が理解できればいいのですか。」とねらいを自分の言葉に置き換えた発言が出た。「これができるようになった。」と授業後に、自分のノートを持って来るなど、ねらいが生徒・教師ともに達成できたことを確認できる生徒も増えてきた。

〇授業者側も常にねらいを意識しながら授業展開ができた。“まなびのプラン”を提示することによって、系統的な学習を意識でき、今の授業の目標が位置付けられた。

〇家庭での予習や復習にどのように生かしているか、見えづらいところが課題である。

9 予想される協議の柱

〇学ぶ意欲を引き出すための指導の工夫と評価の方法

〇“まなびのプラン”をどのように使うと、より有効活用できるか